

甲 第 号

西森 裕佳子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	彦惣 俊吾
論文審査担当者	委員	教授	室 繁郎
	委員(指導教員)	教授	杉江 和馬

主論文

Anti-mitochondrial M2 antibody-positive myositis may be an independent subtype of autoimmune myositis.

抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎は独立した自己免疫性筋炎のサブタイプであるかもしれない。

Yukako Nishimori, Jantima Tanboon, Munenori Oyama, Haruhiko Motegi, Yui Tomo, Mari Oba, Ai Yamanaka, Kazuma Sugie, Shigeaki Suzuki, Shinichiro Hayashi, Satoru Noguchi, Ichizo Nishino

Journal of Neurology 2025 Feb 15 ; 272(3) : 206.

論文審査の要旨

自己免疫性筋炎の中には、抗ミトコンドリア M2 抗体陽性の症例が存在するが、少数例の報告しかなくその詳細は不明であった。本研究では抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎が独立した自己免疫性筋炎の一亜型であるかを明らかにすることを目的とし、大規模コホートを用いた臨床病理学的解析を行った。結果、抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎では免疫介在性壊死性ミオパチーと類似した筋病理像を呈し、慢性経過をたどること、重篤な心合併症や呼吸障害を伴うことが判明した。均一マニホールド近似投影や主成分分析、ロジスティック回帰分析を用いた解析では、抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎が独立した自己免疫性筋炎の一亜型であることを示唆する結果がえられた。

公聴会では、研究手法、筋病理などの研究結果、それに基づく考察がわかりやすく示された。質疑では、抗ミトコンドリア M2 抗体と他の自己抗体との合併例の有無、心障害と呼吸障害の合併が多いことの原因、心障害や呼吸障害の早期発見、早期介入の可能性、筋病理所見と臨床像の関係、抗ミトコンドリア M2 抗体は原因か結果か、今後の研究展望などについて質問があり、いずれも的確に回答されていた。本研究は、抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎の詳細な臨床像を始めて明らかにし、疾患概念構築の可能性を示した意義の高い研究であり、本研究分野の発展に寄与するものと評価される。主論文の内容と公聴会での質疑応答および参考論文と合わせて、審査委員のすべてが適と判断し、博士（医学）の学位に値する研究であると考えた。

参 考 論 文

1. TNNI1 mutated in autosomal dominant proximal arthrogryposis

Yukako Nishimori, Aritoshi Iida, Masashi Ogasawara, Mariko Okubo, Yuki Yonenobu, Makoto Kinoshita, Kazuma Sugie, Satoru Noguchi, Ichizo Nishino
Neurology Genetics 2021 Dec 17;8(1):e649.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに臨床神経筋病態学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和7年6月10日

学位審査委員長

循環器病態制御医学

教授 彦惣 俊吾

学位審査委員

呼吸器病態制御医学

教授 室 繁郎

学位審査委員(指導教員)

臨床神経筋病態学

教授 杉江 和馬